

新人女性議員 座談会

新潟県南西部に位置し、人口は約 18 万人で新潟市、長岡市に次ぐ県内 3 番目の規模である上越市。女性議員ゼロから、2020 年には 7 人が当選と大躍進。市主催の講座に参加し、直後の選挙で当選した女性議員たちに、当時の状況や、立候補する際の葛藤や議員になった後のリアルを聞いた。



*肩書はヒアリング当時



ストラットン恵美子議員



中土井かおる議員

高山ゆう子議員

上

越市全体に女性議員誕生を望む機運が高まっていた

Q:2019年度の上越市男女共同参画推進センター講座「女性が活躍できる社会について」への参加のきっかけは？

高山ゆう子議員(以下、高山):私はこの講座を企画した上越市まちづくり市民大学 OB 会のメンバーであり、以前から議員になりたい思いがあったため、すんなり受講を決めた。

中土井かおる議員(以下、中土井):福祉の現場で働く中で、必要な人に政策が届いていないのはなぜだろう、困っている市民に目を向ける議員がいらないのではと感じていたところ、女性議員から直接話を聞く機会に興味を持って参加した。

ストラットン恵美子議員(以下、ストラットン): 同年に上越市議会女性フォーラムがあって、議員になるきっかけに、是非参加してはと勧められたが都合が合わず非常に悔しかった。自分の中では議員になりたい思いが既

にあって、きっかけになるものは注目していたので、講座内容を見て是非参加したいと思った。

上越市議会 女性フォーラム
女性が議員を目指しやすい環境作り
令和元年8月18日(日)
開始時間: 13時30分~(昼飯13時~)
会場: 高田公園オーブンプラザホール
(上野原町高田公園1番地)
★第一部 基調講演 【講師】 谷口尚子 氏
高田公園オーブンプラザホール
上野原町高田公園1番地
上越市議会女性フォーラム 女性議員を目指す女性たちへ

上越市議会が企画・開催した女性
フォーラムのチラシ
出所:上越市議会ウェブサイト



上越市における取組

女性議員
1人に

2016年>>>>>>>>>>>>>>>>>>>

4 月 上越市議会議員選挙

9月 市議会・地域協議会傍聴体験講座＊

[illegible]

3月「市議を目指しやすい環境整備検討会」の設置(市議会)

11月～12月 市議会・地域協議会傍聴体験講座＊

[illegible]

3月 市議を目指しやすい環境整備検討会
より、議長に提言書を提出

11月 市議を目指しやすい環境整備検討会
の活動がマニフェスト大賞優秀政策提
言賞を受賞

2019年>>>>>>>>>>>>>>>>>

4 月 新潟県議会議員選挙
(唯一の女性市議が県議へ)

8月 女性フォーラムの開催(市議会)

10月～2020年2月 女性の視点で考
えるまちづくり講座「女性が活躍でき
る社会について」*

[illegible]

4月 上越市議会議員選挙

10月～11月 女性市議と語る
-女性の活躍を考える講座*

[illegible]

7月 女性市議と語る-女性の活躍を考える講座*

[illegible]

11月 女性のための市政入門講座＊

*は上越市男女共同参画推進センターと上越市まちづくり市民大学 OB 会との協働による実施

Q:講座に参加した感想は？参加した影響は？

高山:強く覚えているのは現役議員の話聞いたこと。全国的に女性議員が少ないことに以前から疑問を持っていた。父親の影響で政治に関心があり、30代から市議になりたいと思っていたものの、当時私は消防士だったため母親の大反対があり立候補する勇気が持てなかった。この講座があった時期には、市議会として女性議員を出したい雰囲気が伝わってきて、気持ちを奮い立たせることができた。それ以前の私の地域では、女性が選挙に出たいと言うことすらできなかったのだ。

中土井:上越市議会女性フォーラムで心が前向きになり、その後この講座に出た。特に近隣の市議の話を今でも覚えている。「こういう活動をし、こういう成果を上げて、市民に喜んでいただける政策に結び付けた」という実際の話を聞いて、女性市議の地域での活躍について理解することができた。こどもや夫は選挙に出ることに反対で、こどもへの影響は心配していたが、子育てが一段落したタイミングで自分自身の気持ちが固まった。

ストラットン:私の場合、恥ずかしながら市議に挑戦すると決めた後で、女性議員がいない現状を理解した。これまでの職場では女性であることで特に不当に扱われた経験もなかったが、政治の場に、女性である自分が参画する意義があると強く思った。アメリカ人の夫は政治についてオープンに発言するので、私の出馬を家族みんな大賛成で協力してくれた。

高山:この講座が立候補のきっかけになったわけではないが、当時、女性議員を増やすため、女性フォーラムや講座などが新聞に多く取り上げられ、市民の目に触れる機会があったので、市全体で女性議員を求める意識が高まってきたのではないかな。

議

員として活動するリアルと展望

Q:女性議員が増えたことによる議会への影響をどう感じているか？

高山:女性議員が7人いることで、女性の目線での意見を自由に発言できていると感じる。生理用ナプキンについても話題にした。女性議員が毎回一般質問をすることが刺激になり、ほとんどの議員が一般質問するようになった。

中土井:議員になる前は、議会では発言しにくい雰囲気があるかなと思っていたが、上越市議会にはハラスメント的な抑圧された感じは全くなかった。ただ、女性議員が入ったことで、行政側の緊張感はあったようだ。

ストラットン:最初の頃、一般質問前の職員からのヒアリングでは、行政の縦割りを考えず率直に質問して、会議室で、複数課10人ぐらいから囲まれて驚いてしまった。

中土井:女性議員からの質問は、生活目線で細やかなもので、重箱の隅をつつくようだという声も耳にする。

高山:でも市民の生活を変えるにはきめ細やかさが大事で、今の上越市にはそれが足りないと思う。

中土井:生活に根差した視点こそが市民の声であり、女性が議員になったことで市民も困りごとを言いやすくなったのではないかな。

ストラットン:女性議員7人になって、いろいろな団体での意見交換に招かれる機会が多く、その度に女性の声を届けてほしいという熱い思いを感じた。議会や行政がこんなに男性社会だったのかと強く感じるようになり、だからこそいわゆる女性目線と呼ばれる視点が必要だと思った。これまでの4年間、議会の中で女性の声が当たり前になっていくことの意義深さを感じ、でも基本的に

は、男女は関係なく、議員個人の考えが重要だと思う。

中土井:女性議員が増えたことに注目するだけでなく、これからは女性や若者が議員として、どういう考えで何をやりたいのかみてほしい。

Q:女性や若者の政治参画を促進するために求められることは？

高山:議員は女性の能力を生かせる仕事だと思う。個人の経験や能力を生かし、いろいろな立場の意見を市議会に吹き込むことで、より良い上越市議会になっていくだろう。女性議員が半数になることが理想で、クォータ制の設立や、産前産後休暇、オンライン会議の導入などが考えられる。ダイバーシティ、多様性を受け入れることで、いずれジェンダーギャップの解消にもつながるのではないかな。

中土井:女性や若者に関わらず、人口減少が進む地域では代表議員を出すことが困難になってくる。これからの地方議員は、地域の代表というより専門的な視点で市全体をカバーすることが必要になるのでは。また、市民のニーズを捉えるには、ずっと政治の世界にいたのではなく、現場に戻ってプレイヤーになってから、再度立候補しても良いのではないかな。議会に女性議員が居続けることは必要だが、1 人が長く続ける必要はないのでは。

ストラットン:改めて、議会改革の推進が必要だと思う。市民の声を議員がどう吸い上げ、市政に反映していくのか、見える化することでより開かれた議会を形成できる。また、普段の議会活動に目を向け判断いただくことこそ健全な選挙といえるのではないかな。議員の仕事はしようと思えば24 時間 365 日できるが、議員自身の心身の体調やワークライフバランスを保つことも重要だ。出

産や育児等の両立支援に向けた環境整備だけでなく、議会活動の仕組み化をさらに進めることで、多様な議員が活躍できるようになり、様々なスキルを持つ、なり手候補も増えていくのではないかなと思う。いずれにしても市民がより参画しやすい議会の在り方が重要である。

高山:地方議員は市民に寄り添って、何を求めているか受け止めて、市政に反映していかなければならないと思っている。でも、選挙って本当に大変。公人になる大変さを乗り越えないとなれないので。

中土井:私たちは自分たちを「ファーストペンギン」だと思っていて、起爆剤にはなっただろう。女性が活躍する社会に向けて、家事分担など変えていかなければならないが、若い人たちの意識はだいぶ変わってきているようだ。



「ファーストペンギン」を生み出すには

Q:「ファーストペンギン」が出るためには、どういことが必要か？

高山:市全体として女性が立候補しやすい雰囲気作りがすごく大事。2020 年選挙当時は、市議会として女性議員を増やしたいという思いがあった。女性フォーラムや市民団体の講座などが開催され、まちの機運を変え、なりたい人がチャンスをもたらえたと思う。

ストラットン:女性が政治参画することが当たり前になるだけでなく、こどもの頃から政治に興味

を持てるような主権者教育の取組が大事。例えば、私たちのような女性議員が高校生や若い人たちと意見交換することも、きっかけづくりになると思う。

中土井: 家族や自分の色々なタイミングが合うことがきっかけにはなるが、当時を振り返ってみると、女性議員を増やすことを目指して活動する秋山元県議や、県内の女性議員の方々などがいた。やはり自治体や地域のリーダーが大事だと思う。その中で、市民の意見が変わっていくのではないかな。

高山: 私たち7人が当選した後、新潟県内の他自治体の選挙でも女性が増えているので、影響はあったのかなと思う。

ストラットン: 近隣の議会では、(女性模擬議会において)女性市民の一般質問を実施し、その後の改選で女性議員が上位で当選した例もある。

中土井: 私たちをきっかけに、いろんな仕掛けをしてほしい。

講座開催について

-上越市男女共同参画推進センター小池係長に伺いました

2019年度に実施した「女性が活躍できる社会について」は、3回の連続講座でした。

- 第1回: 県内の女性議員を招き、経験談などを聞き、女性の社会参画の必要性を考える
- 第2回: 第1回講座を振り返るとともに、女性の社会参画の現状や課題などを考える
- 第3回: 主に地域協議会の仕組みや役割などについて学び、話し合う

当センターでは、男女共同参画に関わる活動がされている市民団体をセンター登録団体として登録し、男女共同参画基本計画に基づく取組の推進のため、各登録団体の専門性やノウハウ、ネットワークを企画や運営、講師の選定などに生かしてセンターとの協働による講座を開催しています。今回の講座では、社会のあらゆる分野における女性の参画を促進する必要性を啓発するという目的の下、ロールモデルとなる県内の女性議員を講師として招くといった工夫が、参加者の意識啓発に効果的な講座となったものと考えています。

《上越市基本情報》

総人口: 182,398人 (2024年3月1日)

男性: 89,619人

女性: 92,779人

世帯数: 77,386世帯

地 勢: 総面積約 973.89 km²、新潟県の南西部に位置する。

出所: 上越市ウェブサイト

